

基本構想の策定に向けた審議状況の整理

I (仮称) 医科大学院大学の必要性

1 医師確保に向けた本県の主な取組

- (1) ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ
- ・ 医学修学研修資金（奨学金）
 - ・ 奨学金被貸与者の配置調整
 - ・ 医学部（医学科）進学者の増加に向けた取組
- (2) 専門研修の指導医確保
- ・ 指導医を招聘する病院への支援
 - ・ 研修指導体制強化に向けた寄附講座の設置

2 医師数等の現状

- (1) 県内医師数の現状
- ・ 病院勤務医の不足
 - ・ 地域間の偏在
 - ・ 診療科間の偏在
- (2) 本県の医師養成の現状
- ・ 人口10万人当たり医学部定員 全国46位
 - ・ 人口10万人当たり医学系大学院定員 全国46位
 - ・ 医学部進学者が人口規模からの想定水準の7割

⇒ **医師（特に病院勤務医）の確保、地域間・診療科間の偏在解消が必要**

3 医師確保と偏在解消に向けて必要な取組

- (1) 医師確保と県内定着の促進
- ・ 若手医師の志向に沿ったキャリア形成 → 専門医資格を取得できる研修環境の充実
 - ・ オダーメイド型のサポート・キャリア支援 → 学位を取得しやすい研究環境の整備
 - サポート及びキャリア形成支援機能の強化
- (2) 地域間・診療科間の偏在解消
- ・ 地域の医療機関への医師派遣 → 医師派遣機能の強化
 - ・ 指導人材の確保 → 指導医養成体制の強化

4 (仮称) 医科大学院大学の必要性

- (1) 若手医師のサポート・キャリア形成支援や、地域の医療機関への医師派遣等に当たっては、医学部・医学系大学院が大きな役割を担っている。

⇒ **(仮称) 医科大学院大学の設置が医師確保と偏在解消に向けた最適な解決策**

- ・ 教員の配置
- ・ 医師集積拠点の確保

(2) (仮称) 医科大学院大学に期待する効果

- 臨床と研究が持続的に両立できる環境の提供
- 県内医師のサポート及びキャリア形成支援機能の強化
- 医師集積拠点の構築による医師派遣機能の強化
- ・ 県内医師の資質向上
- ・ 医学部医学科への進学者増加
- ・ 研究成果の地域への還元
- ・ 健康寿命の延伸に向けた研究の発展

Ⅱ (仮称) 医科大学院大学が目指す方向性

1 基本理念

健康長寿社会の実現に向け、新たな医療につながる、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探究するとともに、国際的な視野を持ち、複数領域の臨床技術と研究能力を高め続ける医師を養成することを通じ、地域医療水準の向上を目指す。

2 基本方針

- (1) 新たな医療につながる学問の探求
- (2) 複数領域の臨床技術・研究能力を高め続ける医師の養成
- (3) 医療機関を（フィールド、基盤など）とした横断的、融合的な研究の推進
- (4) 地域医療水準向上への貢献
- (5) 国際的な視野の育成と海外との研究交流の推進

3 想定する研究分野（継続検討）

- (1) 研究分野に関する基本的な考え方
 - ①既存の枠にとらわれない研究
 - ②ヒューマンサイエンスを中心とした研究
 - ③地域の医療水準向上に資する研究
 - ④医師の臨床技術・研究能力の向上に資する研究
 - ⑤時代や地域の課題解決に向けた先見性のある研究
 - ⑥社会健康医学を取り入れた研究
- (2) 研究分野の概要

4 養成する人材像（継続検討）

臨床医と医学研究者を養成

5 取得できる学位

博士（医学）

6 (仮称) 医科大学院大学の設置方法（継続検討）

- (1) 設置方法、研究科・専攻の構成
基本理念の実現に向け最も適した設置方法により、医学研究科医学専攻を設置
- (2) 入学定員

7 附属病院の必要性と基本的な方向性

- (1) 附属病院の必要性
 - ・優れた臨床技能や高い研究能力を培う実習・研究の場
 - ・臨床活動と研究活動の両立を可能とする施設
 - ・地域医療水準の向上に向けた高度先進・専門医療の提供
- (2) 附属病院に求められる機能
 - ・教育研修
 - ・研究
 - ・診療
 - ・地域医療
 - ・連携交流
- (3) 附属病院に関する基本方針
医学部を基盤としない（仮称）医科大学院大学において、県立病院の機能を最大限活用しながら、高度先進・専門医療を担い、小児・周産期、精神、がんなどの特徴的な分野を含む大規模な病床を持つ、質・量ともに充実した附属病院を整備

⇒ **魅力的な教育・研究環境と高度先進・専門的な臨床機能を一体的に確保**